

たぐみ

T A K U M I

No.005

平成 10年10月

信州名匠会

(題字：池田三四郎名誉会長)

会長に 東京大学教授 藤森照信 先生 10年度総会開催



●藤森新会長(中央)を囲む懇親会

●10年度事業計画などを決めた総会



●総会翌日は親睦ゴルフ大会も行われた



●ニラハウスの説明をする藤森新会長

信州名匠会の第5回通常総会は6月25日、長野市内の藤屋旅館（文化財登録保存指定建物）で開き、10年度の事業計画や予算などを決めた。また、新会長に東京大学教授の藤森照信先生を選任した。

冒頭、宮本忠長副会長は「信州名匠会のような職人団体が、全国へ広がっていく日は遠くない。村松前会長の遺志を引き継ぎ、皆で会を盛り上げていこう」と語った。

10年度の事業計画は、技術の伝承や後継者の育成を図るため◇講演会、研修会を開催◇会員による住宅の直営工事を推進◇異業種間の技術交流◇失われつつある伝統材料や資料の保護—などを行う。また、優れた職人の発掘や紹介を行い、会員の増強を図る。

総会に続く記念講演会では、新会長の藤森先生が自ら手掛けたニラハウスや秋野不矩美術館をスライドを使って紹介した。



Profile ● 藤森照信先生の紹介

1946年長野県生まれ

1971年東北大学工学部建築学科卒業

1978年東京大学大学院修了

現在、東京大学教授

1983年『明治の東京計画』で毎日出版文化賞受賞

1986年『建築探偵の冒険』で日本文化デザイン賞、サントリー学芸賞受賞

1997年「赤瀬川原平邸に示されたゆとりと温もりの空間創出に対し」

で第29回日本芸術大賞受賞

■ 伝統技術に実践的な関心

藤森照信新会長 ごあいさつ

名匠会のことは、村松貞治郎先生より何かにつけて聞いていた。先生は大工道具の研究をしていたし、建築関係の職人への想いには深いもののある人だったから、名匠会の会長になるのはまことにふさわしかったし、本人もそれを喜びとし、誇りとしておられた。

その名匠会の代表に私になるとは、まったく予想だにしていなかったことだった。私はたしかに先生の弟子で、大学のポストを継いでいるのだが、それは日本の近代建築の研究という面でのことであり、大工道具にせよ職人のことにせよ、門前の小僧以上のものではない。大工道具のことも、先生一代かぎりのことで、先生もそう思っておられたらしく、私をそっちの方に導く気配などさらさらなかったのだから、当然だろう。

私としては、青天の霹靂^{へきれき}というしかない。「名匠会」というのは、名人上手の集まりであり、私のようなガサツを持ち味とする者にはなんとも尻のあたりがムズムズする存在なのである。

にもかかわらず大任をお引き受けしたのは近年、伝統的歴史研究の一方で設計をはじめようになり、伝統的な技術について、にわかに興味が湧いてきたからにはほかならない。伝統的技術といっても、名人上手の技術ではなくて、名人上手というものが成立する以前の技術への好奇心で、ノコギリの発明以前の板はどのように作られていたのか、とか、コテの発明以前の土壁の仕上りは、とか、いってしまえば昔むかしの大昔の技術とその技術による表現への関心なのである。

さいわい知的な関心というよりは、実際にやってみたい、という実践的な関心であり、これを筋の赤い糸として、私は名匠会の名人上手の皆さんにつながることはできるのではないか、と思っている。

平成10年度 信州名匠会 事業計画

1 技術の伝承及び後継者育成を図る

- ① 講演会、研修会等を開催し、職人の技術向上を図る。
- ② 異業種間交流を行い、技術の交流を図る。
- ③ 会員による住宅の直営工事を推進する。
- ④ 失われつつある伝統材料及び資料の保護・育成を図る。

2 優れた職人の発掘及び紹介を行う

- ① 建築行政及び関係組織との連携を図る。
- ② 会員名簿を作成し、各組織へ職人の紹介を行う。

3 機関誌の発行を行なう。

4 視察及び見学を行い、技術の発掘及び交流を行なう。

5 懇親会等により会員相互の親睦と理解を深める。

6 第4回全税共地域文化賞の賞金を基金とし、各県の名匠会発足を推進する。

平成9年度 信州名匠会 事業報告

- 平成9年 6月23日(月) 平成9年度信州名匠会総会
講演会 刀工 宮入 恵先生 「私にとっての刀」
懇親会 <藤屋旅館> 参加者 32名
- 6月24日(火) 親睦ゴルフ大会 <長野カントリー> 参加者 11名
- 9月3日(水) 村松貞次郎会長御逝去 告別式 高野山東京別院
8月29日虚血性心不全 73歳でした
- 9月4日(木) 第17回研修会 <緑艸舎> 参加者11名
- 10月2日(木) 第18回研修会 <緑艸舎> 参加者13名
- 10月25日(土) 「たくみ」No.004 発行
- 11月22日(土) 第3回研修旅行 「近江八幡と琵琶湖」
23日(日) 参加者16名
はちまんまちづくり「間」の会との交流会<酒遊館>
(近江八幡まちづくりシンポジウム 講演 宮本忠長)
- 平成10年 3月25日(水) 第19回研修会 <緑艸舎> 参加者17名
- 4月27日(月) 第20回研修会 <緑艸舎> 参加者15名
- 5月27日(水) 第21回研修会 <緑艸舎> 参加者20名

「名匠会」の全国展開へ 機運高まる

馬場璋造／建築情報システム研究所

1993年に創設された「信州名匠会」については、すでにご存じの方も多いと思う。その名簿を兼ねた「信州職人名鑑 たくみ」が編纂された折りに私も本誌(1996.2)に紹介した。改めて簡単に記すると、「信州名匠会」は建築家宮本忠長の提唱により30職種、43人の会員(職人)を中心に、会長に故村松貞次郎東大名誉教授、副会長に宮本忠長と松本で活躍する建築家降旗廣信という構成でつくられた。そして現在の会員数は55名、賛助会員21社、このなかには宮本以外にも、日本建築家協会会員の建築家が参加している。1996年には「全税共地域文化賞」を受賞している。

そして昨年亡くなった村松会長の後を受けて、大学での村松の後継者藤森照信東大教授が、今年、後任の会長となった。会では原則毎月1回の研修会を宮本の事務所「緑艸舎」で行い、また古建築や名建築を訪ねての研鑽旅行など活発な活動をしている。よりよい仕事をするための職人の連帯がみごとである。

当然、宮本の建築には、長野県内であれば元請けは代わっても実際の仕事には名匠会の面々が参加する。経済原則を律とする現在の社会では、これはルール違反かもしれない。しかしものづくりの本質は、経済だけで律せられてよいものではない。現実にかつこうしたことが行われるようになってきたのは、安ければよいという経済原則ではなく、よいものをつくらうという、ものづくりの視点から出てきたものである。むしろ長い目でみれば、ものにこだわってよい仕事をしたほうが、結局は経済的にも得だといえる。近代化の反省の上に立つ建築基盤は、そうしたところに置かれるべきではないか、という実践を信州名匠会はさきがけて行っているといつてよい。こうした動きは近代化の誤謬を正すことではあるが、近代化に反対し、近代化に逆行することではない。

いまでも、本当に優れた建築は、志のある建築家と、

その現実を熱意をもって支えてくれる職人たちとの連携により実現できると考えている建築家も少なくないはずである。施工会社に在籍していても、そうした思いのある人たちであればこの輪に加われる。クライアントが加わってよい。「名匠会」は信州だけの特異な存在ではなく、全国にその連携が広がっていったこそ、その意義が達成できるというものである。それは「ものづくり」の意義を機会あるごとに説いた信州名匠会初代会長、村松貞次郎の願いでもあった。

こうした思いが通じて、各地で「名匠会」を立ち上げようとする動きが出はじめてきた。現在名乗りを上げているのは、山形の本間利雄、水戸の三上清一、四国の多田善昭である。いずれもそれぞれの土地で、「名匠会」が形成される素地をつくり上げていた人たち、いや、すでに名前こそ付けていないが、同じことをやってきた人たちである。

本間利雄は最初、職人としての経験もあり、1964年に建築家として独立するときに、それまで関係した職人たちが、本間の建築を支援する会をつくってくれたという。いまではそれら職人たちは経営者の立場に立っているが、「建設施工技術研究会」(会員20名)という名前のその会は、現在も月1度の会合をもっており、国内・海外の研修旅行などを行っている。山形の職人たちは数多く現存する「蔵座敷」をつくり、擬洋風の「旧済生館」「旧山形県庁」なども地元の職人たちの手でつくりあげている。そうした職人の自負が、ものづくりを大切に考える本間の「建設施工技術研究会」に継承されているのである。

三上清一は茨城県建築界の重鎮として活躍し、質の高い建築をつくり続けている。その建築家の社会的役割を真摯に考えている一端を「JIA Bulletin」1998年9月号に、建築家の仕事は『「積り」ではなく「本気」でなくてはなるまい』と述べている。それとともにものづくりの重要性を十分に認識し、バブル期の鹿島開発などの大量動員で、ものづくりとしての職人のシステムが崩壊してしまったことを嘆いている。そして、いまならばまだ間に合うだろうという考えから、バブル後のものづくりに意欲のある職人のシステムを再建するための「名匠会」の立ち上げに意欲を燃やしている。

香川県を中心に設計活動を行っている多田善昭は、日

本建築学会四国支部長を務め、デザイン・マインドの高い建築家である。密度の濃い設計を実現するために、ときには企画の段階から職人たちが相談の輪に加わる。クライアントも同席する。設計の意図を検討を通して十分知ってもらい、また職人の知恵を建築に生かすためである。そして後から加わる施工会社の現場担当者の理解と意欲が成否に大きく関わると語る。彼らがこの輪に加わったとき、その成功が約束される。そして完成時には、クライアントが自費で職人たちを招待し、企画→設計→施工の一連の流れを「語り合う宴」を主催するようにまできている。小規模であってもすでにすばらしい「名

匠会」が成立しているといえる。さらにこれから、高知の山本長水らと計って「四国名匠会」の旗揚げを企画している。

こうした「名匠会」への動きを、「新建築」も私も積極的に支援していきたいと考えている。そして各地での動向は、逐一新建築誌上で報告していく予定である。今回名乗りを上げた山形、水戸、四国のほかでも、「名匠会」設立に意欲のある建築家が各地におられるであろう。そうした建築家は是非連携してきて欲しい。

ものづくりを重視した建築の新たなネットワークができればと期待している。

定例研修会のスケッチ (緑艸舎にて)

信州名匠会は宮本忠長建築設計事務所のサロンで、毎月1回研修会を開いている。内容は建築材料や設備の解説、伝統建築物の保存、復元の動きなど。毎回2時間程度、専門家をまじえた意見交換を行い、ものづくりへの意欲を高めあっている。以下、8月26日に行われた「塗装について」の講演要旨。



塗料に4つのキーワード

日本ペイント(株)汎用塗料事業部技術担当
高栄正樹氏

住む人、塗る人双方のニーズに目を向けて、塗料をつくっていかなければならない。キーワードは①環境問題②省力化③高機能・新機能④意匠—の4つ。

①環境問題

塗料の溶剤にはシンナーが入っているが、今後は特に居住者へ配慮して水性化を進めていかなければならない。PL法やシックハウスへの対応の面から不可欠だ。技術的に水性化が無理でも、シンナー濃度を薄くする弱溶剤化は必須になっている。

②省力化

省力化はいかに楽に、簡単に塗れるかという施工者の

立場に立った考え方。◇乾きが早くすぐに次の工程に移れる即乾性◇下塗り・中塗り・上塗りという工程を少なくできる密着性◇若い職人でも熟練者と同じ仕上げができる作業性が求められている。

③高機能・新機能

塗装が保護、美観(化粧)の機能を満たすのはもはやあたり前。今は、これまで考えもつかなかった機能が必要だ。◇抗菌◇脱臭◇低汚染(表面に汚れがつかない)などに可能性がある。

④意匠

単一的なものからはなれ、擬石調の模様を出したり木目やコンクリートの生地をいかすことも求められる。

こうした4つのキーワードのうち、最低1つは塗料の必要条件。これからは、2つ3つを兼ね備えた商品がでてくる。

●信州名匠会新会員紹介 (H10.6.25)

職種★氏名★会社名★住所／TEL

設備★樋口豊★(株)ライフエンジニアリング★長野市伊勢宮1-28-11 ☎ 026-226-1629

設備★宮下恒夫★サンコー特機(株)★長野市田中 937 ☎ 026-296-7318

設備★町田幸一★(株)町田電機商会★長野市徳間1174-81 ☎ 026-295-0980

石★藤森吉三★藤森鉄平石(株)★諏訪市諏訪 1-13-8 ☎ 0266-52-0255

屋外広告★田幸康信★(株)電弘★長野市三輪 1-5-19 ☎ 026-241-3321

クリーニング★竹内公夫★(株)ダスキンビホーム★長野市青木島町大塚 68-3 ☎ 026-284-6415

平成10年度 信州名匠会 年間スケジュール

- | | | | |
|--------|-------|----------------|-----------------|
| 平成9年度 | ・ 4月 | 研修会 | 住宅設備 (配管・配線) |
| | ・ 5月 | 研修会 | 合板 |
| | ・ 6月 | 役員会 | 総会について |
| | ・ 6月 | 平成10年度総会および懇親会 | (藤屋旅館) |
| | ・ 6月 | 懇親ゴルフ大会 | (長野カントリー) 3組予定 |
| 平成10年度 | 1 7月 | 研修会 | 解体修理記録 (桂離宮) |
| | 2 8月 | 研修会 | 塗装 |
| | 3 9月 | 研修会 | 水について (信大・浅野先生) |
| | 4 10月 | 研修会 | 板金 |
| | 5 11月 | 役員会 | 研修旅行について |
| | 6 11月 | 研修旅行 | |
| | 7 12月 | 研修会 | 防水 忘年会 |
| | 8 1月 | 研修会 | 木製建具・表具 |
| | 9 2月 | 研修会 | 瓦 |
| | 10 3月 | 研修会 | 作庭 |
| | 11 4月 | 研修会 | 畳 |
| | 12 5月 | 研修会 | 内装 |
| | 13 6月 | 役員会 | 総会について |
| | 14 6月 | 平成11年度総会および懇親会 | (藤屋旅館) |
| | 15 6月 | 懇親ゴルフ大会 | (長野カントリー) |

研修会 場所：緑柳舎

時間：午後6：30～8：30

研修会内容・日時については変更もあります。

お知らせ

信州名匠会は現在、会のステッカーを作成中。年度内には会員に配る予定です。何らかの付加価値を付けて仕事に役立つような使い方をしていきたいと思っていますので、アイデアをお寄せ下さい。

■親睦ゴルフ大会成績

競技日：10年6月26日／場所：長野カントリー／天候：晴れ

1位 五明 良平 ((株)五明)

2位 関 嘉彦 (東洋設備工業(株))

3位 笹川 明 (信州大学工学部教授)

